

熊本応援、「竜南」の縁



熊本市立竜南中から届いた礼状を見る県立竜ヶ崎南高の生徒会役員＝龍ヶ崎市北方町

竜ヶ崎南高 被災中学から礼状

熊本地震で被害を受けた同じ名前の中学校を助けるため、県立竜ヶ崎南高(塚本敏雄校長、通称竜南)が贈った応援メッセージ入りTシャツと義援金が、現地の生徒を励ましている。熊本市で避難所となった同市立竜南中の窮状を知った同高生徒会役員が中心となり、先月募金活動を展開。50人超の生徒も「笑顔になって」「一緒に頑張ろう」などとTシャツに気持ちを込めた。今月中旬には同中から「人の温かさに触れた」と書かれた校長名の礼状が届き、さらに同中では生徒自らが礼を述べるビデオレターを送る予定という。

メッセージや義援金

同中と同高によると、同中では熊本市の近くにある、地震発生後、避難所となった。最盛期には約300人が体育館での生活を余儀なくされた。壁面が崩れ、一部のトイレが使用できないなどの被害があったもの。同高生徒会では地震発生直後から現地が心配になり、インターネットで検索する中、竜南中の名前を知った。「同じ名前の学校の

人たちが大変な思いをしている。自分たちにできることはないかと考えた」。生徒会長長の伊藤春香さん(17)はこう振り返る。

生徒会役員は5月中旬に4日間、登校する生徒に呼び掛けたほか、昼休みに教室を回って義援金を募り、5万1697円を集めた。部活や委員会に所属する生徒にも協力を仰ぎ、「竜南」と記された同高スクールカラーの緑色のTシャツに応援の言葉を書いて、5月下旬に発送した。

同高からの支援を受け、同中の長元尚子教頭は「大地震で大人も子どもも不安定になり、疲労もピークだった。そんな中、こうした応援が寄せられ心の支えになった。Tシャツに書かれた励ましの言葉を読んだ子どもたちも『ふさぎ込んではいけな』と前向きになった」と感謝する。

礼状を見た同高生徒会会計の荘司大輝さん(16)は「茨城と熊本の実際の距離は遠いけど、心は近づいたと思う。今後も役に立てることがあれば、積極的に支援したい」と話した。

同中では元気をもらった緑色のTシャツを玄関口に飾る考えという。

(鹿嶋栄寿)